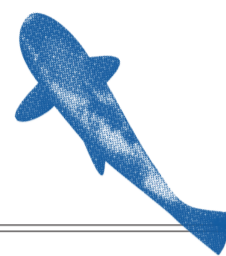


sentto & neighborhood journal

MATSUNOYU

せんとうと まち新聞



北区の 記憶あつめ編 Vol.5 松の湯

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとうとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全23軒(令和5年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有して、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS 松の湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



昭和レトロな商店街と 共存しながら次代の 銭湯のあり方を模索

地域を想い、父親から受け継いだ松の湯

JR駒込駅と田端駅の間にある田端銀座商店街。「松の湯」はこの昭和の風情が漂う通りの一角にある。一見すると「こんなところ銭湯があるのか」と思ってしまうようなビルだが、階段を上するとそこには地域住民に愛され続けている癒しの空間が広がる。

「創業年は定かではないが、かつては昔ながらの木造建築だったよう。1972年に今のビルに建て替えた」と聞いている。と話すのは3代目店主の村上礼隆さん。創業者は父方の祖父で、ルーツは富山県。現在は礼隆さんと姉の麗子さん、そしてパートの2人で銭湯を切り盛りしている。「若い頃は家業を継ぐかどうか迷ったこともあったが、父が亡くなってしばらく閉めていた時に『いつ再開するんですか』と常連さんに頻りに聞かれ、地域のためにもこの銭湯を守りたいと決意した」と言う。

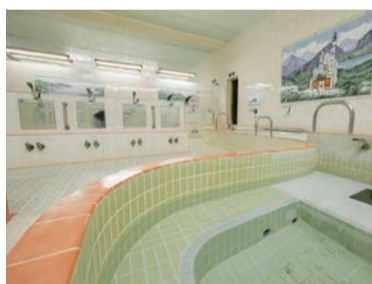


開店前、常連がベンチで談笑している松の湯入口。

とはいえ、常連の高齢化は顕著で、コロナ禍以降は特に女性客の減少が



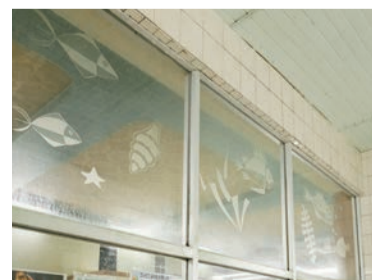
目立ち始めている。だが一方で、サウナはないものの、商店街や松の湯のレトロな風情を求めて訪れる若者たちが少しずつ増えているという。「風呂場から若い人たちが『最高だなー』と言っている声が聞こえるという。マンションは増えたけれど、この界限にはまだ昭和の風情が残っているから、銭湯とあわせて楽しんでほしい」と礼隆さんは微笑む。ちなみに、最近では近所にゲストハウスがあることもあって、外国人の利用客も増えているそうだ。



綺麗な浴室になつかしさを感じるタイル。

レトロな趣を持つ 瀟洒な内観

そんな松の湯の風呂場の壁面には国内外の景勝地や草花のかわいらしいタイル絵が描かれており、広めの湯船に浸かりながら、ちよつとした旅行気分を味わえる。また、すりガラスに描かれたレトロな魚の絵もキュートだ。もちろん、湯加減もボタン、かつて使用していた井戸水は30年ほど前に枯れてしまったそうだが、日替わりの葉湯が評判で



すりガラスに描かれたレトロで可愛い魚の絵。

商店街とともに歩む 銭湯が目指す新しい試み

「かつてはこの界限にも多くの銭湯があったが、今やうちが最後のひとつ。田端銀座商店街はコロナ禍を乗り越え、今年は久しぶりに商店街の道を封鎖して盆踊りなどの行事も実施した。これからも商店街と二人三脚で、何とかこの銭湯と下町情緒を残していきたい」と礼隆さん。また「以前に風呂場でライブイベントを実施して盛り上がったことがあるので、今後は少しずつそういう機会を設けたり、サウナを導入したりして、若い人たちの心を掴みたい」と力強い。3代目の若き感性でどのような銭湯に進化していくのか、今から楽しみみでならない。



今も多くの商店が軒を連ねる田端銀座商店街。

せんとう情報 SENTO DATA

松の湯



松の湯 東京都北区田端4丁目3-9 JR山手線「駒込駅」から徒歩6分 15:00-23:30 定休日:月曜、木曜日

フロント あつ湯の浴槽 ランドリー

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

● 現在も営業中 ● 閉店

松の湯

昭和の風情漂う商店街の一角にあるビル型銭湯。1階には昔から、なんでも売っている洋品店、サンキが入っている。松の湯には、もともと多くの親子連れが訪れており、ベビーパウダー入れがずらっと並んだ脱衣場の光景が懐かしいという声も。



提供:丸山絵美花

野口薬局

地域に根ざし、調剤や化粧品などの幅広い体の悩みを相談できる薬局さん。かつては花火や駄菓子など子供に向けた商品が多く置いてあるおもちゃ屋さんも営んでおり、子どもたちが放課後に集まる場となっていたそう。



松の湯編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう!

田端銀座の盆踊り大会

東京では珍しい、道路を封鎖して行う田端銀座商店街の盆踊り大会。横長に伸びる盆踊りの列は圧巻。



グランドベーカリー

レトロな佇まいが可愛いグランドベーカリー。メインは卸業だが、店頭でも購入することができる。以前はこの場所に佃忠かまぼこ店があったという。



佃忠 かまぼこ店

こだわりの自家製おでん種が、老若男女問わず愛され続ける佃忠かまぼこ店。子どもの頃おやつとしてよく食べていたという方からは「持ち帰り用の袋に爪楊枝で穴を開け、残った汁も全部飲み干していた」という思い出話も。



住民かく語りき

松の湯周辺

わたしのせんととうとまち

北区の記憶あつめVol.5 松の湯

9月22日、記憶集めトークイベントが実施された。これは松の湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。参加したご近所の方々にも思い出に語り合ってもらった。

そもそも、松の湯は田端銀座商店街の端に位置しており、田端方面に比べて、店舗の数もより少ない。そのうえ、近年は周囲のマンション開発に伴い、店舗の数がだいぶ減ってしまったという。それでも長年にわたって商店街をリードしてきた野口薬局はじめ、活気のある店舗もまだまだ健在。聞けば「野口薬局は以前、ゲームの筐体を設置したり、駄菓子を販売したりしていたこともあって、子どもたちにとって最高の遊び場のひとつだった」「商店街のそこかしこで子どもたちが遊んでいた」そうだ。また、昭和の風情を残しながらも、新店舗が目見えするケースも多い。最近だと「おしゃべりなコーヒースタイル」や「ワイン屋さん」などが開業し、商店街に新風を吹き込んでくれている」という話も。礼隆さんも「そういうお店とコラボレーションして、新しい可能性を探りたい」と話していた。

COMMENT

父が遺してくれた音声データを基に銭湯経営を承継
— 村上礼隆さん(松の湯3代目店主)

私が松の湯の仕事を手伝い始めた頃は父がすべての仕事を取り仕切っていたので、分からないことだらけでした。ただ、父が病に伏してからはこのままではまずいと危機感を覚え、何とかポイラーをはじめとした機械の扱い方や清掃の仕方などの教えを聞き出し、録音することができました。それから間もなく父は亡くなってしまいましたが、その音声データのおかげでどうにか滞りなくオペレーションを続けることができました。振り返ってみると、私が子どもの頃には松の湯にも三助さんがいましたし、20数年前までは住み込みで働いていた従業員もいました。ですが、今はとにかく人手不足。姉と2人のパートナーさんが手伝ってくれていますが、いざいざは完全にワンオペになるので、なかなかの忙しさです。とはいえ、お客さんとのコミュニケーションも大切な仕事のひとつなので、忙しい時でも時折、野球の話などに花を咲かせたりしています。

松の湯の思い出...



Photo / Mari Okamoto



発行：一般社団法人 せんととうとまち

代表理事：栗生はるか 理事：サム・ホルデン / 三文字昌也 / 江口晋太郎 / 牧野徹 メンバー：福井彩香 / 渡邊勢士

編集・執筆：熊本鷹一 グラフィック：株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉 協力：東京都北区浴場組合 / 白坂翼

北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当：北区政策経営部シティプロモーション推進担当課)にて制作。

一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi

